

平成24年度大学入試センター試験の
実施に関する検証報告書

平成24年度大学入試センター試験の
実施に関する検証委員会

平成24年3月30日

目 次

1	検証の目的.....	4
2	検証の方法.....	5
3	平成 24 年度大学入試センター試験の変更点とトラブル.....	6
3.1	受験方法等の変更.....	6
(1)	受験方法.....	6
(2)	受験教科事前登録制.....	6
3.2	実施方法の変更.....	7
(1)	受験科目数による試験室の分離と問題冊子の形態.....	7
(2)	答案回収・解答用紙配付のための中間時間（10 分間）の設定.....	7
(3)	時間割の設定.....	7
3.3	東日本大震災の影響による臨時試験場の設営.....	8
3.4	発生したトラブル.....	8
(1)	「地理歴史、公民」の試験時間帯における配付ミス等.....	8
(2)	試験時間の確保と繰下げ.....	8
(3)	ICプレーヤー等の輸送ミス.....	9
(4)	その他.....	9
3.5	受験者の救済措置.....	9
(1)	解答科目順序入替と再試験.....	9
(2)	再試験当日に受験希望した受験者への対応.....	10
4	検証（1）：平成 24 年度大学入試センター試験の実施にともなうトラブル.....	11
4.1	「地理歴史、公民」の試験時間帯における問題冊子の配付ミス.....	11
(1)	配付ミスの地域差.....	11
(2)	設置者別にみた配付ミス.....	11
(3)	試験室規模と配付ミスの関係.....	11
(4)	試験室の問題冊子配付パターンと配付ミスの関係.....	12

(5) 配付ミスと監督者のセンター試験業務に対する意識	12
4.2 ICプレーヤー等の輸送（大学ー試験場）ミス	12
4.3 試験時間の繰下げ	13
5 検証（2）：平成24年度大学入試センター試験のリスクマネジメント	14
5.1 リスクマネジメントとしての事前準備	14
(1) 入試担当者連絡協議会	14
(2) 大学学内でのセンター試験実施のための委員会	14
(3) 監督者説明会	14
(4) 監督要領の記述及び問題冊子等配付確認表の表記	15
5.2 本試験当日のリスクマネジメント	16
(1) 試験場での朝の確認伝達事項	16
(2) 本試験当日の業務連絡	16
5.3 事後における受験者への救済措置	17
(1) 「地理歴史、公民」配付ミス等対象受験者への対応	17
(2) 再試験当日に受験希望した受験者への対応	17
6 トラブルの再発防止に向けて	18
6.1 問題冊子の形態	18
6.2 監督要領の改善	18
6.3 業務連絡システムの改善	19
(1) 大学入試センターから実施大学、監督者への情報伝達	19
(2) 監督者、実施大学から大学入試センターへの連絡体制	19
6.4 「地理歴史、公民」及び「理科」2科目受験者試験室における中間時間	19
6.5 試験時間割の検討	20
6.6 新たな変更を加えた場合のチェック	20
関連資料	21
資料1 平成24年度大学入試センター試験の実施結果について	22
資料2 地理歴史・公民および理科における科目選択の弾力化	24
資料3 地理歴史、公民及び理科の試験室の割り当てパターン	25
資料4 各試験室における地理歴史、公民の問題冊子配付パターン	25
資料5 問題冊子等配付確認表	26

資料 6 検証委員会による「平成 24 年度大学入試センター試験の実施結果に関するアンケート調査」について	27
図表 1 地理歴史, 公民登録者人数区分別試験室数の割合	28
図表 2 配付パターン別試験室数の割合比較	28
図表 3 監督者説明会への参加意欲	29
図表 4 大学入試センター試験の実施に対する認識	30
図表 5 リスニング機器の 2・3 次輸送について	31
図表 6 入試担当者連絡協議会の説明方法	31
図表 7 監督者説明会で使用している資料について	32
図表 8 監督者説明会への出席予定人数	33
図表 9 監督者説明会への出席状況	34
図表 10 配付ミスの有無と監督者説明会の規模・出席率	35
図表 11 監督者説明会の欠席者への対応	36
図表 12 監督要領で使われている用語の分かりにくさ	37
図表 13 問題冊子等配付確認表で使われている用語の分かりにくさ	38
図表 14 本試験当日朝の確認事項 (第 1 日目)	39
図表 15 本試験当日の大学入試センターと実施大学との間の電話連絡	40
図表 16 「地理歴史、公民」の問題冊子配付ミスの再発防止について	41
図表 17 「地理歴史、公民」の問題冊子の配付トラブル等の原因について	42
図表 18 「地理歴史、公民」の時間帯での指示ミスの原因について	43
図表 19 試験時間繰下げの理由について	44
図表 20 地理歴史、公民」の受験者入室終了から解答開始までの時間	45
資料 7 平成 24 年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会設置要項	46
資料 8 平成 24 年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会委員名簿	47
資料 9 平成 24 年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会審議経過	48

1 検証の目的

大学入試センター¹試験は、大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするものであり、国公立の大学（短期大学を含む。）と大学入試センターが共同して実施し、各大学が、それぞれの判断と創意工夫に基づき適切に用いることにより、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定することに資するために実施するものである。

本検証委員会の目的は「平成 24 年度大学入試センター試験」において発生した試験実施トラブルの再発防止の検討である。大学入試センターは、国立大学協会等からの要望を受け、「地理歴史、公民」及び「理科」における科目選択の弾力化を決定し、平成 24 年度の大学入試センター試験からその改革を実施した。その結果、2 教科を 1 試験時間で実施することとなり、それによる監督者の業務が複雑化し、問題冊子配付ミス等のトラブル、試験時間の繰下げが全国的に発生した。また他のトラブルとしては、ICプレーヤー等の輸送ミスがあった。本検証委員会は、これらの再発防止を念頭に置き、受験者が信頼して受験できる大学入試センター試験の実施をめざし、今回のトラブルの検証を行う。

検証の第 1 は、発生したトラブルの実態把握とその解明である。「地理歴史、公民」の試験時間帯で発生した配付ミス等はどのようなトラブルであったのか、またミスはどのような条件の下で発生したのかについて、また「地理歴史、公民」の試験時間帯では試験時間の繰下げを行った試験室が多数発生したが、この原因についても検証を行う。ICプレーヤー等の輸送ミスについては、大学から試験場への輸送プロセスに着目する。検証の第 2 は、センター試験におけるリスクマネジメントである。ここでは、大学入試センターから実施大学関係者への事前の説明・周知、本試験当日の事務連絡体制、トラブルに関わっての事故対応・協議が適切であったかを検証する。最後に、受験者救済措置についても触れる。

¹ 独立行政法人大学入試センターは、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施することとする試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）における教育の振興に資することを目的とする。（独立行政法人大学入試センター法（平成 11 年 12 月 22 日法律第 166 号）第 3 条）

2 検証の方法

検証作業の基本的な指針は「外部有識者による検証」である。今回のトラブルでは大学入試センターも実施大学も検証される側にあるため、受験者、高校側からの視点が重視され、検証委員会の委員の選出²が行われた。

検証作業では三つの方法を用いた。第1の方法は関係資料の整理、データ分析である。関係資料については、実施提要（実施要領、監督要領、輸送要領、成績提供要領）などの変更前との比較、実施方法に関する関係委員会の審議経過の整理、データ分析については、配付ミスの有無と試験室の属性（設置者別、地区別、試験室規模別、問題冊子配付パターン別等）との関係、定期報告（交通運行・天候状況等）以外の事項として報告された試験時間繰下げの状況の分析を行った。第2の方法は平成24年度大学入試センター試験実施大学へのアンケート調査である。実施本部を置く544大学にアンケート調査票を送付し、519大学から回答を得た。調査内容は①大学入試センターの担当業務（入試担当者連絡協議会、本試験当日の事務連絡体制等）、②各大学の担当業務（監督者説明会、問題冊子等及びリスニング機器の輸送、試験室への監督者の充当等）③各大学と大学入試センターとの連絡体制などである。第3の方法は大学入試センター関係者、大学・高校関係者、ヒューマン・エラーの専門家等からの聞き取りである。

² 検証委員会の構成委員（高校関係者、ヒューマンエラー・リスクマネジメントの専門家、中立的な立場の有識者としての弁護士、証言者としての大学関係者及びセンター試験の実施方法に精通した有識者としてのセンター試験実施方法委員会（現）委員長）

3 平成 24 年度大学入試センター試験の変更点とトラブル

平成 24 年度の大学入試センター試験では、受験方法、実施方法等においていくつかの大きな変更があった。これらの変更は今回のトラブルを引き起こす重大な要因になったと考えられるものであり、まずその変更内容を簡潔にまとめておく。次に、トラブルの実態と受験者救済措置について記す。

3.1 受験方法等の変更

(1) 受験方法

地理歴史、公民及び理科の試験については、従来、同一試験時間帯に設定されていたために選択できなかった受験科目の組合せを可能とし、受験者の多様な学習成果をより発揮できるよう、以下の通り受験方法の見直しが行われた。

地理歴史及び公民の 2 教科については、同一の試験時間帯（130 分）に実施し、地理歴史 6 科目及び公民 4 科目の中から多様な組合せで最大 2 科目の選択が可能となった（ただし、同一名称を含む科目（例：「世界史 A」と「世界史 B」）の組合せで 2 科目を選択することはできない）。また、理科についても、従来は 6 科目を 2 科目ずつ三つにグループ化し、同一グループ内から 2 科目選択することは不可能であったが、1 試験時間帯（130 分）で実施することにより、6 科目の中から多様な組合せで最大 2 科目の選択が可能となった。

「地理歴史、公民」及び「理科」の試験時間帯において 2 科目を受験した場合には、解答順に、前半に受験した科目を第 1 解答科目、後半に受験した科目を第 2 解答科目と称している。

(2) 受験教科事前登録制

試験当日の問題冊子の不足の懸念を解消し、試験を安全かつ円滑に実施することができるよう受験教科の事前登録制が導入された（過去に、予想以上の受験希望者が出たことにより、複数会場において問題冊子が不足する事態が発生した事例がある。）。

従来は、受験する教科数が 2 教科以下であるか、3 教科以上であるかを登録するのみで、受験希望教科・科目については受験予定の科目を丸で囲むこととしていたが、試験当日の変更は可能であった。今年度からは、受験する教科名・科目数は出願時に事前登録することとなり、試験当日は登録した教科のみを受験できる仕組みに変更された。また、「地理歴史、公民」及び「理科」については、それぞれの教科ごとに登録した科目数を受験しなければならないが、これらの登録内容は出願後に変更することはできないこととなった。

3.2 実施方法の変更

(1) 受験科目数による試験室の分離と問題冊子の形態

「地理歴史、公民」及び「理科」については、それぞれ2科目及び1科目のみを受験することを可能としている。2科目受験する場合の試験時間は9：30～11：40までであり、1科目のみ受験する場合はこの試験時間帯の中で実施しなければならない。しかし、この両者の試験を同一の試験室で実施することができない（試験開始前の説明・指示、答案回収の時間等）ため、1科目受験者の試験室と2科目受験者の試験室は分離された。

他方、問題冊子については、元来、大学入試センター試験は、受験教科のアラカルト方式による各大学の利用を前提としており、各教科別また試験時間別に分冊形態をとっていた。平成24年度の「地理歴史、公民」の試験時間帯においては、問題冊子を合冊とすることも検討されたが、問題冊子の取り扱い易さ、技術面や経費面等を考慮し、各教科別の分冊形態が優先され、「地理歴史」と「公民」の問題冊子は各1冊となった。「地理歴史、公民」の各受験者試験室では、受験者が出願時に登録した教科に応じて問題冊子を配付するため、受験者ごとに配付する問題冊子の組合せが異なることとなった。

(2) 答案回収・解答用紙配付のための中間時間（10分間）の設定

「地理歴史、公民」及び「理科」の2科目受験者の試験時間帯においては、2科目の受験が60分ずつ公平に行われるよう、中間時間（10分間）を設け、その間に第1解答科目の答案を回収し、第2解答科目の解答用紙を配付することとされた。なお、この時間はトイレ等を含め試験室からの一時退室は原則認められていない。

(3) 時間割の設定

第1日目の1時限目に、「地理歴史、公民」（2科目受験者）が配置されている。これは、時間割全体の構成を検討する中で、予想される受験者数、受験しない教科がある場合の待機時間、リスニング・テストの再開テスト時間の設定、2日間それぞれの試験終了時間等を総合的に勘案した結果であった。

また、1試験時間当たりの拘束時間が長時間（160分間）に及ぶことから、受験者入室終了から試験開始までの時間の設定は、前年度と同じ20分が望ましいと判断された。なお、事前に実施した注意事項等の説明時間の計測結果では、問題冊子及び解答用紙の配付を含め20分間で試験準備が完了することが見込まれた。仮に、時間が不足した場合には開始時間を繰り下げて試験時間を確保することとされ、この点は監督要領等に記載されている。

3.3 東日本大震災の影響による臨時試験場の設営

東日本大震災の影響により、使用できなくなった試験場等があり、試験場の収容力を確保するため、4つの試験場が被災地に設けられた。このうち宮城県気仙沼高等学校試験場は、地元受験者の強い要望を踏まえ、他の試験場に比べ相当程度遅れて設置が決定された試験場である。

3.4 発生したトラブル

(1) 「地理歴史、公民」の試験時間帯における配付ミス等

大学入試センターの事故報告では、「地理歴史、公民」の試験時間帯における配付ミス等は544の実施大学のうち69大学で発生し、試験室数では98室に及ぶ。これは、全国の試験室数9,843室の約1%にあたる。配付ミス等の類型は、地理歴史から1科目と公民から1科目を受験希望する受験者がいる試験室において、①監督者が第1解答科目と第2解答科目の解答順序を指示した(10室)、②いずれか1教科の問題冊子しか配付しなかった(76室)、③第1解答科目開始後に、受験者が解答していない教科の問題冊子を回収した(1室)、の3種類に大別される。一部には、これらの複合型のミスもあった(11室)。大学入試センターは、ミスが発生した試験時間帯に当該試験室に在室していたすべての受験者を対象者と認定した。このように認定した理由は、受験者への影響の程度、範囲がミスの内容によっても異なるので、影響範囲の特定は困難だったからである。この基準により、各大学から報告された影響者数の合計は3,452人であった。

配付ミス救済対象者

実施大学数	試験場数	試験室数	対象者数
69大学 (544大学)	81試験場 (709試験場)	98室 (9,843室)	3,452人 (526,311人)

()内は平成24年度の全体数

(2) 試験時間の確保と繰下げ

問題冊子の配付ミス等のほか、正規の時刻に試験が開始できないというトラブルも発生した。受験方法の変更により、試験監督者の業務は、試験室入室前の、問題冊子等の受取物(9種類)の確認に始まり、入室後の注意事項等指示、写真用シール配付、問題冊子・解答用紙配付、答案回収等が従来以上に複雑になった。試験時間の繰下げについては、試験開始までの準備が長引き、開始時刻を繰下げの場合、あるいは途中でトラブルがあり、試験時間の確保のため、繰下げが行われる場合がある。10分以上の繰下げを実施した試験

時間帯は、「地理歴史、公民」の2科目受験者の試験時間帯に集中しており、48試験場、影響のあった受験者は4,053人にのぼった。

(3) ICプレーヤー等の輸送ミス

本試験当日、宮城県気仙沼高等学校試験場ではICプレーヤー等200台が未着であることが試験開始予定の2時間前に発覚した。実施本部大学からの2次輸送³の点検確認が不備であったことによる。すぐにICプレーヤー等の追輸送の手配を行い、実施本部大学から搬送されたが、到着まで2時間半を要し、2時間遅れて試験開始となった。ほとんどの受験者が試験室での待機を強いられ、うち1名は体調を崩し、再試験となった。

(4) その他

「地理歴史、公民」及び「理科」の2科目受験者の試験時間帯（9：30～11：40）に設けられている中間時間（10分間）に、原則認められていないトイレによる一時退室が複数の試験場で発生した。そのために、時間繰下げを実施した試験室もあったことが報告されている。

3.5 受験者の救済措置

(1) 解答科目順序入替と再試験

配付ミスの影響を被った受験者に対して、試験当日、実施大学では第1解答科目と第2解答科目の入替希望を確認し、答案の転記を受験者に行わせた。さらに、再試験を希望する者については、実施大学と大学入試センターの間で協議を行った。

本試験終了後、大学入試センターは受験者への救済措置を発表し、①第1解答科目と第2解答科目の解答順序入替の希望、②再試験の受験希望の二つの選択肢を提示し、実施大学を介してその意思確認を行った。その結果、3,452人の対象者のうち、科目の解答順序の入替を希望した者が264人、再試験希望者は243人、このうち実際に受験した者は212人であった。

再試験受験者数及び第1解答科目と第2解答科目の解答順序入替者数

対象者数	再試験受験者数	解答順序入替者数
3,452人	212人	264人

³ 問題冊子等、リスニング機器の輸送は大学入試センターから大学へ（1次輸送）、大学から試験場、試験室（2、3次輸送）へ送られる。別キャンパスへの輸送は2次輸送、同一キャンパスは3次輸送になる。

(2) 再試験当日に受験希望した受験者への対応

実施大学から再試験受験希望なしと報告された受験者が再試験場に来校した事例があり、受験者本人の意向を再度確認した上で、大学入試センターにおいて時間を繰下げて再試験を実施した（1人）。

4 検証(1):平成24年度大学入試センター試験の実施にともなうトラブル

4.1 「地理歴史、公民」の試験時間帯における問題冊子の配付ミス

(1) 配付ミスの地域差

大学入試センターでは、試験実施の便宜上、全国の実施大学数を均等になるように8区分し、A～Hまで地区ブロック⁴をつくっている。この地区ブロックは全国を北から南まで8区分しているが、通常地域区分とは異なっており、対応関係は次のようである。Aブロックは北海道から関東までを含み、B、Cブロックは関東、Dブロックは関東から甲信越、東海・北陸、Eブロックは東海・北陸から近畿、Fブロックは近畿、Gブロックは近畿から中国・四国を含む。Hブロックは中国・四国から九州・沖縄までをカバーしている。この8地区ブロック(A～H)に分けて配付ミスの発生状況を比較してみた結果、多少の違いはあるものの地域的な著しい偏りは見られなかった。

(2) 設置者別にみた配付ミス

国立大学の場合は、各実施大学がその傘下に多くの試験室を抱えているため、実施大学数に比較して試験室数が多く、私立大学は実施大学数に比較して試験室数が少ない。試験室数の総数は国立、私立のいずれも4,000室台であり、ほぼ同等であるが、試験室に配置される予定の監督者数は1大学あたりの平均⁵にして、国立が250人程度、公立、私立が70人台である。配付ミス試験室数は国立大学が51室、公立大学が12室、私立大学が35室で、私立大学で比較的少なかった。国立大学では試験室数も多く、監督者数の規模が大きいため、監督要領の周知徹底等において困難があったことが理由として考えられる。

(3) 試験室規模と配付ミスの関係

試験室規模(1試験室あたりの教科別登録者数)別にみた配付ミス試験室の分布は、全9,843室の分布とほぼ同じであった。試験室規模による顕著な影響は認められず、試験室規模の大小にかかわらず配付ミスは発生していた。多少特徴的なところを述べれば、31～40人規模の試験室では配付ミスの割合がやや高い。監督者の配置は志願者数50人に対して2人が原則であり、志願者数が50人を超すと、監督者はさらに加配される。この結果から、1試験室あたりの監督者数が配付ミス発生に一定程度影響する可能性も否定できない。

(参照:図表1[p.28])

⁴ この8地区ブロックは本試験当日の業務連絡体制に用いている。

⁵ 本検証委員会で行なった544の実施大学への調査結果(回答者:各大学の入試課長)より。

(4) 試験室の問題冊子配付パターンと配付ミスの関係

「地理歴史、公民」の2科目受験者試験室(4,159室)においては、問題冊子の配付パターンが混在型から単一教科型まで7タイプ、①地理歴史1+公民1、地理歴史2、公民2(試験室数の割合:9%)、②地理歴史1+公民1、地理歴史2(14%)、③地理歴史1+公民1、公民2(11%)、④地理歴史1+公民1(52%)、⑤地理歴史2、公民2(0%)、⑥地理歴史2(8%)、⑦公民2(6%)が存在する。

④のパターンは全試験室では52%をしめるが、配付ミス試験室の中ではこれが70%に拡大する。つまりより複雑な混在型試験室では配付ミスはむしろ起こりにくく、どちらかといえばより単純な配付パターンの試験室で配付ミスは起こりやすいという傾向がみられる。

(参照: 図表 2 [p. 28])

(5) 配付ミスと監督者のセンター試験業務に対する意識⁶

監督者説明会への実施大学別監督者の出席状況は、配付ミスの有無により多少の違いがあり、配付ミスがあった大学では、監督者説明会欠席者へのその後の対応が、説明会資料のみを配付するという傾向がやや多くみられる。

配付ミスの有無と高い相関をもつのは、監督者説明会の出席率よりも監督者総数の規模である。配付ミスがなかった450大学のうち、監督者総数が200人以上の実施大学は25大学(6%)であるのに対して、配付ミスがあった69大学のうち監督者総数が200人以上の実施大学は22大学(32%)である。監督者総数が大きいほど配付ミスが生じる傾向がみられる。

配付ミスがあった実施大学では、監督者説明会への教員の参加意識は「熱心さ」の点で配付ミスがなかった実施大学よりも明らかに低く、また「センター試験の実施業務が大学入試センターとの共同実施である」という認識も、配付ミスがあった実施大学の教員は配付ミスがなかった実施大学に比べて低かった。

(参照: 図表 3 [p. 29], 図表 4 [p. 30])

4.2 ICプレーヤー等の輸送(大学-試験場)ミス

大学入試センターからの1次輸送については大学入試センターの輸送要領にしたがって、受領・確認を行う仕組みになっているが、2、3次輸送については大学の責任で行われる。

2、3次輸送を実施する大学は国立では6割をしめるが、公立では1割、私立ではわずか

⁶ 本検証委員会で行なった544の実施大学への調査結果(回答者:各大学の入試課長)より。

である。輸送要領を作成して輸送、確認にあたっている大学はおよそ9割だが、輸送要領なしで輸送を行っている大学も1割強存在しており、この点については課題がある。

2、3次輸送を行っている大学の7割以上は、実施本部で試験室単位の仕分けを済ませている。残る3割ほどの大学は試験場単位の仕分けを実施本部で行い、2、3次輸送の後、試験場でさらに試験室単位の仕分けをする。前者は、仕分けが一度であるため、紛失、盗難の危険性が少ないという利点があるが、試験当日までは封印され、直前まで点検確認がされない問題点がある。後者の場合は、仕分けが二度にわたるため、紛失、盗難の危険性が高くなるが、ミスがあれば早めに気付くという利点がある。

東北大学の宮城県気仙沼高等学校試験場で生じたICプレーヤー等の輸送ミスは前者に近い方法で、実施大学本部で仕分けを完了させてしまう方法を採用しており、試験直前までコンテナの封印を解除していなかった。

東北大学の総括によれば、ミスの発生原因は、①各試験場への仕分け時や問題冊子等の搬送時のチェックもれ、②宮城県気仙沼高等学校試験場でのICプレーヤー等の個数確認もれであるとされているが、これらのミスの判明が試験直前となってしまったことに上記の確認方法も影響している。また、あわせて体制上の問題点として、①宮城県気仙沼高等学校試験場に対する仕分け等の統一した試験関連物品チェック責任者の未配置、②宮城県気仙沼高等学校試験場への試験関連物品の確実な個数確認方法マニュアルの未作成、があげられている。
(参照：図表5 [p.31])

4.3 試験時間の繰下げ

受験者の入室終了から試験開始までの監督業務として、従来の注意事項等の指示内容に「不正行為の取り扱い」が加わり、説明すべき事項が従来よりも増加している。さらに、「地理歴史、公民」2科目受験者試験室では、試験の進行方法についての指示が加わり、問題冊子の配付の複雑化も影響し、時間繰下げが多数発生したものと考えられる。実際の試験場では規模や形態が様々な試験室があり、大学入試センターが事前に行った、入室終了から試験開始までの監督者業務に要する時間の計測が不十分であったと思われる。

5 検証（2）：平成24年度大学入試センター試験のリスクマネジメント

センター試験の実施体制を三つの時期に分けて、リスクマネジメントの観点から検証する。「事前準備」、「本試験当日」、「事後対応」のそれぞれの時期によって発生するリスクの内容も対応の考え方も異なる。

5.1 リスクマネジメントとしての事前準備

事前準備は大学入試センターの担当業務と実施大学担当業務に分かれており、実施提要（各種要領）等の説明に関しては『大学入試センターから実施大学へ』が大学入試センター担当業務、『実施大学から監督者等へ』が実施大学担当業務にあたる。

(1) 入試担当者連絡協議会

大学入試センターでは「入試担当者連絡協議会」を8月（7地区）と12月（2地区）に行う。本検証委員会で行なった544の実施大学への調査では、入試担当者連絡協議会の開催に関する質問について、回数、地区数、時間、会議の形態（全体会方式等）いずれについても「現行通りがよい」との回答が7割以上をしめた。説明内容については「実施提要全体（現行通り）」が6～7割をしめているが、実施要領及び監督要領だけを重点的に説明する、あるいは変更点だけを重点的に説明するなどの工夫を求める回答も少なくなかった。（参照：図表6 [p. 31]）

(2) 大学学内でのセンター試験実施のための委員会

各大学では試験実施のための委員会を設置することとなっている。

実施大学への調査では、9割以上の実施大学でセンター試験実施関係者を集めて会議を開催している。同会議での説明資料には、ほとんどの大学では大学入試センターの実施提要が使われているが、一部の大学ではこれに大学作成の資料やスライド、受験案内などを併用している。

(3) 監督者説明会

監督者説明会は、監督者が適正な業務遂行と冷静な事故対応を行う上で、試験室のリスクマネジメントに重要な役割を果たす。監督者説明会は2時間程度で開催されているところが半数だが、それをこえる時間を説明会にあてている大学も3割ほどある。ほとんどの大学で、大学入試センター作成の監督要領と大学作成資料を説明に使用している。大学入試センター作成のスライドを使用している大学は半数程度であり、大学入試センターのスライドについてさらに活用されるよう改善の余地がある。

監督者説明会への「出席率が9割以上」の大学が8割以上である。監督者説明会に出席

できなかった者への対応は7割が入試担当者から個別に説明する機会をつくっているが、3割弱は説明資料を配付するだけという大学もある。

監督者説明会への教員の参加意識については、把握することは難しいが、調査では「熱心に参加している」と回答している大学が半数程度であった。他方、「義務的に参加している」との回答も2割弱に達する。さらに、センター試験の実施が「大学入試センターと大学との共同実施である」との認識についても尋ねているが、「(監督者の)大半が認識している」との回答は6割強であり、「共同実施との認識が少ない」との回答も1割強存在した。

監督者説明会で、1試験時間2科目受験の際に「地理歴史、公民」問題冊子の「2冊同時配付」に触れたかどうかを尋ねた設問については、「触れている」との回答が9割強存在した。

(参照: 図表 7 [p. 32], 図表 8 [p. 33], 図表 9 [p. 34], 図表 10 [p. 35], 図表 11 [p. 36])

(4) 監督要領の記述及び問題冊子等配付確認表の表記

平成24年度の監督要領は、受験方法、実施方法の変更により、前年度に比べて、指示内容等の分量が増えた。例えば第1日目1時限の試験開始までの指示内容等の部分は、平成23年度は4頁から平成24年度は7頁に増加した。

また、監督要領で使われている用語で、「監督者にとってはわかりにくい」とされたのは、いずれも『1試験時間2科目受験』に関連する表記内容であり、2科目・1科目受験者、2科目・1科目受験室、第1・第2解答科目の別などが該当する。

監督要領の2科目受験者試験室での問題冊子の配付に関する指示内容等では、『各受験者に「問題冊子等配付確認表」(参照: 資料 5 [p.26])を参照しながら、登録した教科の問題冊子と第1解答科目の解答用紙(緑色)を配布する』と記されているだけで、「2冊同時配付」という記述がなかった。

「問題冊子等配付確認表」についても、「地歴+公」という表示が2冊同時配付を、「●」が無登録者であることを、また、各試験室の教科ごとの登録者数の表記⁷も「わかりにくい」との回答が4割前後に及んだ。とくに配付ミスが発生した実施大学では同時配付の表記が「わかりにくかった」の回答が6割に達した。

(参照: 図表 12 [p. 37], 図表 13 [p. 38])

⁷ 例えば、地理歴史の問題冊子1冊のみ配付が27人、地理歴史1冊、公民1冊同時配付が16人、無登録者が4人の受験者47人の試験室の場合に、配付確認表に表記されている登録者数は地理歴史43人、公民16人。

5.2 本試験当日のリスクマネジメント

本試験当日のリスクマネジメントは「(1) 試験場での朝の確認伝達事項」、「(2) 本試験当日の業務連絡（事故対応）」に分かれる。

(1) 試験場での朝の確認伝達事項

当日の朝、強調した確認伝達事項としては、「問題訂正について」及び「正規の試験時間確保について」が9割強、次いで、「問題冊子の配付について」が8割強であった。配付ミスがあった大学では、なかった大学に比べて「問題冊子の配付について」に触れたという回答が約2割少なく、この点の注意喚起が十分ではなかったと思われる。

(参照：図表 14 [p. 39])

(2) 本試験当日の業務連絡

事故等についての協議又は試験問題についての照会は臨時電話で行われ、「時間繰下げ」、「試験問題の照会」、「不正行為の取り扱い」、「不測の事態」、「再試験協議」の5種類に大別される。

大学入試センターの試験実施当日、業務連絡の体制は、4.1(1)で示したA～Hまでの8地区ブロックに分け、1地区あたり4台、合計32台を割り当てている。32台の担当者が想定されている範囲の措置・対応を行う。想定範囲外の不測の事態に対しては、2～3人の専門スタッフが対応にあたり、より高度な判断は大学入試センター実施本部内の試験実施本部にあげられる。

本試験2日間の連絡体制について調査した結果、電話連絡が100件を超えたのは「地理歴史、公民」の2科目受験者の試験時間帯と1科目受験者の試験時間帯であった。前者が303件、後者が117件で、他の試験時間帯は、もっとも多くても60件程度に減少する。「地理歴史、公民」の試験時間帯においては「速やかに電話がつながり、すぐに回答が得られた」のは全体の6割にとどまり、残りの大部分は電話のつながり易さに関わらず、回答に時間がかかるなど、迅速な対応はおぼつかなかった。「地理歴史、公民」以外の試験時間帯では、電話での協議又は照会は大幅に減少するにもかかわらず、電話がつながりにくいものが散見された。当日の業務連絡を円滑に行うための体制に関し、ハード、ソフト両面で課題があったと考えられる。

また、本試験当日中に配付ミス等の全容を大学入試センターが把握しきれなかったのは、各大学の実施本部が試験室で起きたトラブルの状況を把握することが容易ではなかったことにもよる。

(参照：図表 15 [p. 40])

5.3 事後における受験者への救済措置

(1) 「地理歴史、公民」配付ミス等対象受験者への対応

本試験終了後の1月16日、大学入試センターは早急に実態の把握に努め、受験者の救済措置を講じること、また今回のトラブルの検証を速やかに行うことを公表した。この一環として大学入試センターは、16日当日に544のすべての実施大学に配付ミス等調査を依頼し、実態把握に努めている。その結果、当該試験時間帯に試験室に在室していた人数が3,452人であることが判明し、トラブルの影響如何にかかわらず、これらすべての受験者に対して、受験者救済措置を実施した。

1週間後に追・再試験を控え、成績提供のスケジュールから考えてもこの追・再試験日までに救済措置を完了する必要があるがあった。それができない場合には、配付ミス等のトラブルは個別大学の入学試験に影響する恐れがあり、救済措置の範囲を最大限に広げる必要があるがあった。しかし、この点については受験者の側に、不公平さを主張するものもあり、公平性をどの程度まで求めるべきか、という点での課題を残した。

(2) 再試験当日に受験希望した受験者への対応

再試験受験希望なしと報告された受験者が再試験場に来校した件については、実施大学側と大学入試センター側との間で、受験者救済措置に関して、十分な協議をするだけの時間的余裕がなく、意思疎通を欠いた部分があった。

また、大学入試センターでは、受験者が来校した点を考慮し、受験の希望があるものと判断、受験を認めることとした。これは、受験者に不利にならないよう救済措置を幅広くとったものと理解されるが、決定までに時間を要した点は意思決定プロセスに課題があったと考えられる。

6 トラブルの再発防止に向けて

再発防止に関する検証委員会の議論を集約すると、以下の点にまとめられる。なお、本委員会においては、平成 24 年度大学入試センター試験において特徴的に発生したミスに関し、平成 25 年度の実施に間に合う改善策を提示することを重視した。中長期的に検討が必要な課題については、別途検討の場が設けられることを要望する。

6.1 問題冊子の形態

「地理歴史、公民」の問題冊子の配付の複雑さが配付ミス等の原因であったことは否定できない。従来の 1 試験時間で 1 冊子配付に慣れた者ほど、1 試験時間に同時に 2 冊配付することを理解しにくかったという意見もある。第 1 解答科目の答案回収及び第 2 解答科目の解答用紙配付のために中間時間が設けられたことも、従来の慣習から抜け切れなかった理由の一つと考えられる。調査では、再発防止策として、「二つの問題冊子の合冊化」を 6 割程度が回答している。問題冊子は合冊化（または 2 冊パッケージ化）を行う方向で検討すべきであり、合冊化は、説明の工夫、問題冊子配付等確認表の表記の見直し以上に、ミスの再発防止に寄与し、実施方法の簡素化、試験開始前の準備時間の短縮化にも有効である。また、受験者の側にとっても、出願時の事前登録は「地理歴史、公民」の受験登録と、「地理歴史、公民」の試験時間帯で受験する科目数（1 科目または 2 科目）を登録するだけで済むこととなる。

なお、合冊化の際には、新たに生じるとされる問題への対処についても、事前に検討策が講じられる必要がある。（参照：図表 16 [p. 41]）

6.2 監督要領の改善

平成 24 年度の監督要領は、前年度に比べて、指示内容等の分量が増えており、時間繰下げが多発した理由の一つはそこにある。また「地理歴史、公民」及び「理科」については、受験方法、実施方法の変更にもなって新しい用語、表記が増えており、一部の監督者はそれらを十分に理解しないまま、監督業務にあたったことも否定できない。問題冊子の配付時に参照する問題冊子等配付確認表も、その表記が必ずしも適切でなかったとの指摘もある。このため、当日の説明に要する時間を短縮する観点から、監督要領のスリム化を行うとともに、表現は経験のない監督者にも理解できるような平易で明確な記述にすることが求められる。また、監督者の理解を助けるとともに、監督要領への記載内容の精選に資するよう、例えば、監督者向けの簡明なリーフレット及び説明 DVD の作成、問題冊子表紙への注意事項の記載（チェックリスト付）、情報の Web 配信等の工夫も検討されるべきであ

る。

(参照：図表 17 [p. 42])

6.3 業務連絡システムの改善

(1) 大学入試センターから実施大学、監督者への情報伝達

大学入試センターから実施大学へ、実施大学から監督者等へ、情報が的確に伝達される必要がある。しかし、現実には、入試担当者連絡協議会の説明段階ですでに、難解と思われる用語、表記（2科目受験者・1科目受験者など）が認識されており、その難点は監督者説明会においてもそのまま持ち越された。調査においても、「地理歴史、公民」の配付ミスの原因について、「監督要領から読み取れなかった」と6割が回答しており、関係者の意見を踏まえつつ、用語、表記の工夫・改善を図ることが必要である。

また、監督者への周知徹底を図るため、監督者説明会の欠席者への対応として、説明会を複数回設けることや、個別対応を徹底することなどが重要であり、大学入試センターから実施大学に要請を行うことが必要である。

このほか、各大学における2、3次輸送については、各大学それぞれに状況が異なるため一律の対応は困難であるが、各大学ごとの輸送要領が整備されるよう、大学入試センターから実施大学に要請を行うべきである。

(2) 監督者、実施大学から大学入試センターへの連絡体制

試験室から実施大学本部へ、実施大学から大学入試センターへ正確に情報が伝達されることが必要である。各大学から大学入試センターに対し電話連絡が集中したために、交信が滞り、迅速な事故協議が進められないという事態も生じていた。このような事態を回避するため、電話、FAX、インターネット等の通信手段の適切な組合せなどの工夫が必要である。また、各種の協議が競合した際に、できる限り迅速に実施大学に回答することができるよう大学入試センター内での体制についても検討が求められる。今回のようなトラブルが発生しないよう、十分な事前の準備が徹底されることが前提であるが、同程度のトラブルが発生した場合にも適切に対応できる事務連絡体制のハードとソフトの両面の改善が必要である。

6.4 「地理歴史、公民」及び「理科」2科目受験者試験室における中間時間

「地理歴史、公民」及び「理科」2科目受験者試験室中間時間の10分間は、「トイレ等の一時退室は、原則認めない」ことについての周知徹底を受験者側及び監督者側の両者に行う必要がある。また、同時に、中間時間における連絡要員の増員を検討することが必要である。

6.5 試験時間割の検討

「地理歴史、公民」及び「理科」をどの試験時間帯に配置するかについても、ミスの未然防止を図る観点から改めて検討する必要がある。本委員会では、「地理歴史、公民」の時間帯を別の時間帯や2日目に移動するなど複数の案について検討を行ったが、「地理歴史、公民」の問題冊子の合冊化を前提とした場合、現行試験時間割より明らかに改善される案を見いだすには至らなかった。各科目の予想される受験者数、受験しない教科がある場合の待機時間等、様々な事情を総合的に勘案した上で、さらに大学入試センターにおいて検討をされることを期待する。

6.6 新たな変更を加えた場合のチェック

今後、受験方法、実施方法、問題冊子の形態等、新たな変更を試みた場合、それを実施以前にチェックするシステムが必要であり、十分なシミュレーションを実施（冊子の運搬、配付等も含む。）した上で検討がなされることを期待する。

関 連 資 料

資料 1 平成24年度大学入試センター試験の実施結果について

平成24年度大学入試センター試験の実施結果について

1. 概 要

- | | |
|-------------|---|
| (1) 参加大学数 | 835大学（うち短期大学161） |
| (2) 試 験 日 | 本 試 験 : 平成24年1月14日(土), 15日(日)
追・再試験 : 平成24年1月21日(土), 22日(日) |
| (3) 志 願 者 数 | 555,537人 現役志願者数 439,713人
現役志願率 41.5% |
| (4) 受 験 者 数 | 526,311人（受験率94.74%） |
| (5) 成績提供件数 | 1,448,589件（平成24年3月23日現在）
国立大学 : 383,883件
公立大学 : 133,777件
私立大学 : 918,793件
短期大学 : 12,136件 |

【注】成績提供は、4月13日まで受け付ける。

2. 東日本大震災に伴う特例措置

(1) 試験場の指定の特例

元の学校に籍を置いたまま他校に通学している志願者を現住所により指定

- ・ 指定件数 5校 38人

(2) 臨時試験場の設定

- ・ 岩手県立大船渡高等学校試験場
 - ・ 岩手県立釜石高等学校試験場
 - ・ 宮城県気仙沼高等学校試験場
 - ・ 福島県立相馬東高等学校試験場
-
- ・ 受験者数 939人

3. 追・再試験の実施

(1) 追試験

実施大学数	受験許可者数	受験者数
2 大学	239 人	208 人

(2) 再試験

教科名	対象大学数	対象者数	受験者数
地理歴史，公民 [※]	69 大学	3,452 人	212 人
外国語（筆記）	3 大学	51 人	11 人
英語リスニング	2 大学	2 人	1 人
理科	2 大学	64 人	3 人
数学②	1 大学	307 人	38 人
合 計	77 大学	3,876 人	265 人

4. 「地理歴史，公民」の2科目受験者の試験室において問題冊子の配付漏れ等が発生した試験室の受験者に対する救済措置（※再掲）

(1) 救済措置対象者

実施大学数	試験場数	試験室数	対象者数
69 大学 (544 大学)	81 試験場 (709 試験場)	98 室 (9,843 室)	3,452 人 (526,311 人)

() 内は平成 24 年度の全体数

(2) 再試験受験者数及び第1解答科目と第2解答科目の解答順序修正者数

対象者数	再試験希望者数	再試験受験者数	解答順序修正者数
3,452 人	243 人	212 人	264 人

資料 2 地理歴史・公民および理科における科目選択の弾力化

平成 23 年度

地理歴史

- 「世界史 A」
- 「世界史 B」
- 「日本史 A」
- 「日本史 B」
- 「地理 A」
- 「地理 B」

6 科目から 1 科
目を選択し、解
答する。



平成 24 年度

地理歴史、公民

- 「世界史 A」
- 「世界史 B」
- 「日本史 A」
- 「日本史 B」
- 「地理 A」
- 「地理 B」
- 「現代社会」
- 「倫理」
- 「政治・経済」
- 『倫理、政治・経済』

左記出題科目の 10 科目のう
ちから 最大 2 科目 を選択し、解
答する。
ただし、同一名称を含む科目の
組合せで 2 科目を選択するこ
とはできない。
なお、受験する科目数は出願時
に申し出ること。

公民

- 「現代社会」
- 「倫理」
- 「政治・経済」

3 科目から 1 科
目を選択し、解
答する。



理科①

- 「理科総合 B」
- 「生物 I」

左記出題科目 2
科目から 1 科目
を選択し、解答
する。



理科

- 「理科総合 A」
- 「理科総合 B」
- 「物理 I」
- 「化学 I」
- 「生物 I」
- 「地学 I」

左記出題科目の 6 科目のうち
から 最大 2 科目 を選択し、解答
する。
なお、受験する科目数は出願時
に申し出ること。

理科②

- 「理科総合 A」
- 「化学 I」

左記出題科目 2
科目から 1 科目
を選択し、解答
する。



理科③

- 「物理 I」
- 「地学 I」

左記出題科目 2
科目から 1 科目
を選択し、解答
する。



資料 3 地理歴史、公民及び理科の試験室の割り当てパターン

「地理歴史、公民」及び「理科」の2科目受験者と1科目受験者は、同一の試験室には割り当てず、以下の2段階の手順により割り当てる。

第1段階

第2段階

第1段階		第2段階				
	地理歴史、 公民	理科		地理 歴史	公民	理科
A	2科目	2科目	a	2科目		2科目
			b		2科目	2科目
			c	1科目	1科目	2科目
B	2科目	1科目	d	2科目		1科目
			e		2科目	1科目
			f	1科目	1科目	1科目
C	1科目	2科目	g	1科目		2科目
			h		1科目	2科目
D	1科目	1科目	i	1科目		1科目
			j		1科目	1科目

資料 4 各試験室における地理歴史、公民の問題冊子配付パターン

試験室数・収容数によっては、「地理歴史、公民」において配付する問題冊子の種類が異なる受験者を同一の試験室に収容することがある。

	配付冊子			理科2科目 受験者試験室	理科1科目 受験者試験室
	地歴	公民	2冊子同時配付		
地理歴史、公民 2科目 受験者試験室	地歴2	公民2	地歴1+公民1	a b c	d e f
	地歴2	公民2		a b	d e
	地歴2		地歴1+公民1	a c	d f
		公民2	地歴1+公民1	b c	e f
	地歴2			a	d
		公民2		b	e
			地歴1+公民1	c	f
地理歴史、公民 1科目 受験者試験室	地歴1	公民1		g h	i j
	地歴1			g	i
		公民1		h	j

資料 5 問題冊子等配付確認表

問題冊子等配付確認表

〇〇大学	(1/3)	試験場 コード	〇〇〇〇〇
〇〇〇 試験場		(1/3)	
〇〇〇 試験室	(1/1)	試験室 番号	〇〇〇

試験時間帯	地理歴史, 公民 (2科目受験者試験室)
登録者数	地理歴史 43 人 公 民 16 人

受験番号	配付冊子	受験番号	配付冊子	受験番号	配付冊子	受験番号	配付冊子	受験番号	配付冊子	受験番号	配付冊子
1001	地歴	1016	地歴	1031	地歴+公	1046	●				
1002	地歴	1017	地歴	1032	地歴+公	1047	●				
1003	地歴	1018	地歴	1033	地歴+公						
1004	地歴	1019	地歴	1034	地歴+公						
1005	地歴	1020	地歴	1035	地歴+公						
1006	地歴	1021	地歴	1036	地歴+公						
1007	地歴	1022	地歴	1037	地歴+公						
1008	地歴	1023	地歴	1038	地歴+公						
1009	地歴	1024	地歴	1039	地歴+公						
1010	地歴	1025	地歴	1040	地歴+公						
1011	地歴	1026	地歴	1041	地歴+公						
1012	地歴	1027	地歴	1042	地歴+公						
1013	地歴	1028	地歴+公	1043	地歴+公						
1014	地歴	1029	地歴+公	1044	●						
1015	地歴	1030	地歴+公	1045	●						

○ 配付する問題冊子

地理歴史, 公民	地歴: 地理歴史の問題冊子1冊 公: 公民の問題冊子1冊 地歴+公: 地理歴史1冊, 公民1冊 ●: 無登録者
国語 リスニング 理科 数学①	○: 該当する試験時間帯の問題冊子1冊 ●: 無登録者
外国語(筆記) 数学②	○: 該当する試験時間帯の問題冊子1冊 別: 別冊子問題冊子 ●: 無登録者

資料 6 検証委員会による

「平成 24 年度大学入試センター試験の実施結果に関するアンケート調査」について

(1) 調査の枠組み

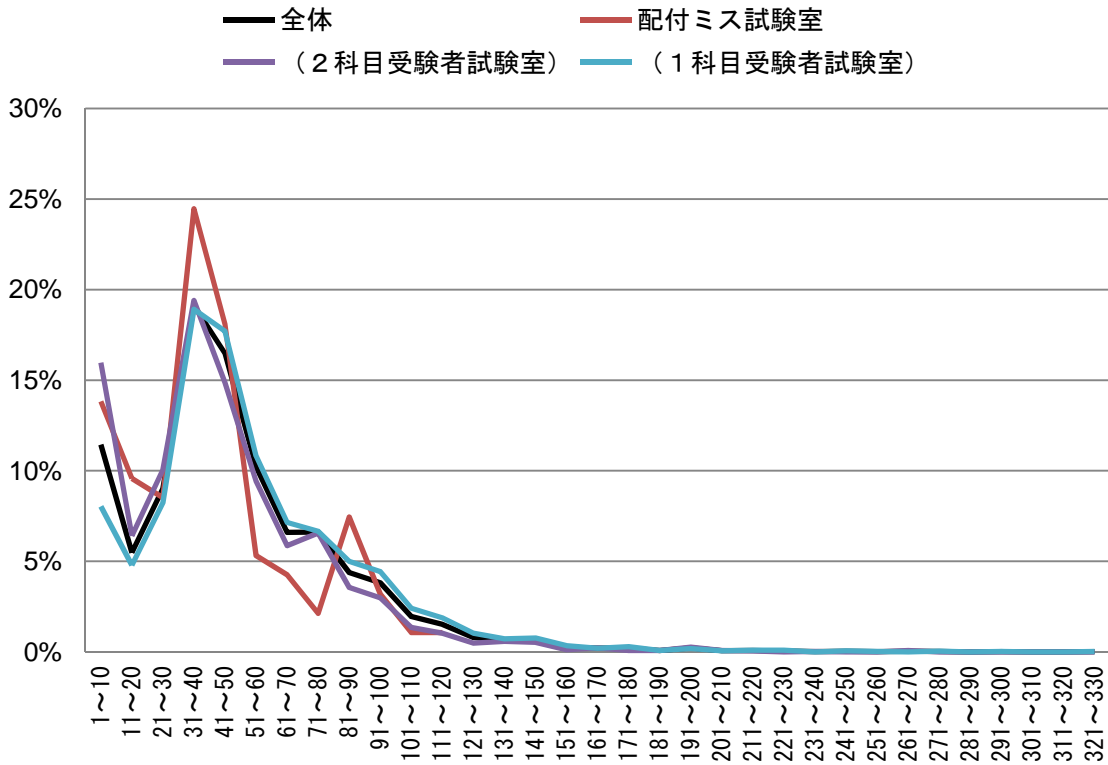
I	大学入試センター業務について
	・入試担当者連絡協議会について
II	大学担当業務について
	・センター試験の学内実施体制に係る会議等について
	・問題冊子、解答用紙、リスニング機器等の 2 次輸送・3 次輸送について
	・監督者の選出と充当について
	・監督者説明会の概要について
	・本試験当日のことについて
III	平成 24 年度大学入試センター試験における各大学と大学入試センターとの連絡業務について
	・本試験当日の定期報告以外での協議又は照会について
IV	平成 24 年度大学入試センター試験の時間繰り下げ及び配付トラブル等について
	・原因について
V	平成 25 年度大学入試センター試験の改善について
VI	自由記述

(2) 調査票の配付及び回収状況

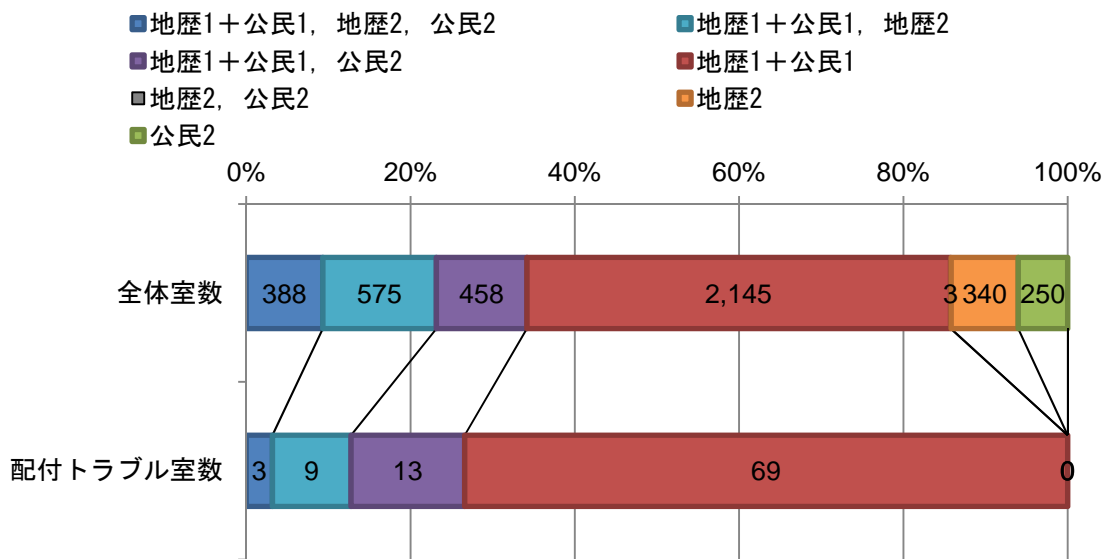
調査対象は大学入試センター試験の実施本部を置く 544 大学

	国立	公立	私立	配付ミス有	配付ミス無	合計
配付大学(短期大学)数	80	71	389	69	475	544
回収大学(短期大学)数	80	67	372	69	450	519
回収率	100%	94%	95%	100%	95%	95%

図表 1 地理歴史，公民登録者人数区分別試験室数の割合



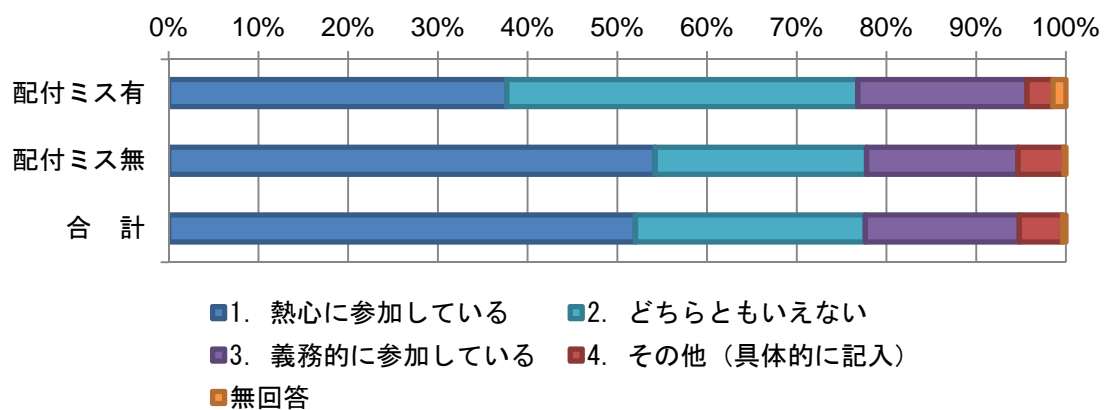
図表 2 配付パターン別試験室数の割合比較



(配付トラブル室数の合計：当日別室の4室を除く94室)

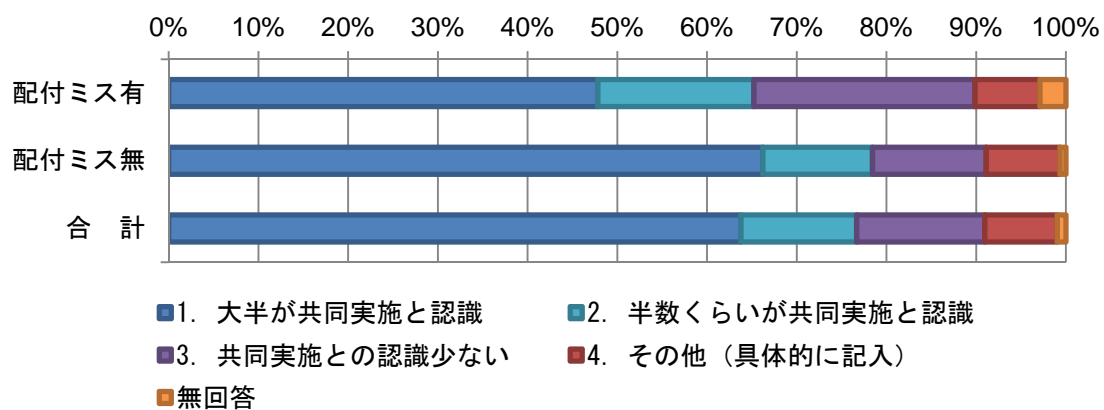
図表 3 監督者説明会への参加意欲

選択肢	区分	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
		大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 熱心に参加している		26	38%	244	54%	270	52%
2. どちらともいえない		27	39%	106	24%	133	26%
3. 義務的に参加している		13	19%	76	17%	89	17%
4. その他(具体的に記入)		2	3%	23	5%	25	5%
無回答		1	1%	1	0%	2	0%
計		69	100%	450	100%	519	100%



図表 4 大学入試センター試験の実施に対する認識

区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 大半が共同実施と認識	33	48%	298	66%	331	64%
2. 半数くらいが共同実施と認識	12	17%	55	12%	67	13%
3. 共同実施との認識少ない	17	25%	57	13%	74	14%
4. その他(具体的に記入)	5	7%	37	8%	42	8%
無回答	2	3%	3	1%	5	1%
計	69	100%	450	100%	519	100%

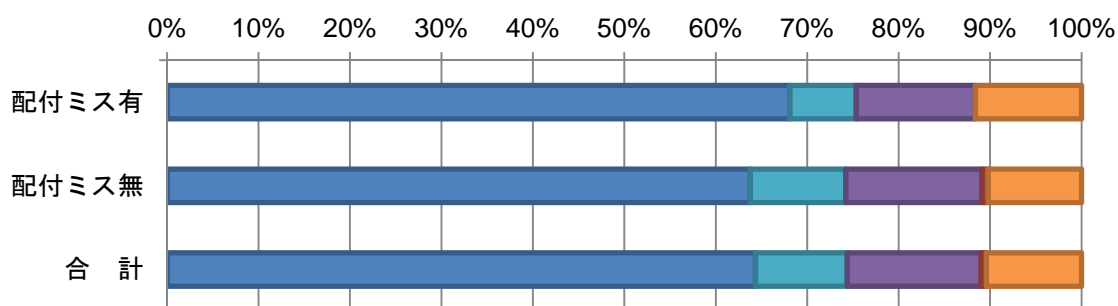


図表 5 リスニング機器の2・3次輸送について

区分 選択肢	国立		公立		私立		合計	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
1. 試験実施本部(仕分け) →2・3次輸送	32	40%	6	9%	13	3%	51	10%
2. 試験実施本部(仕分け) →2・3次輸送→試験場(仕分け)	16	20%	2	3%	0	0%	18	3%
2・3次輸送の実施なし	32	40%	59	88%	359	97%	450	87%
計	80	100%	67	100%	372	100%	519	100%

図表 6 入試担当者連絡協議会の説明方法

区分 選択肢	国立		公立		私立		配付ミス有		配付ミス無		合計	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
1. 実施提要の詳細を説明する(現行通り)	52	65%	52	78%	230	62%	47	68%	287	64%	334	64%
2. 実施提要の変更点だけを説明する	3	4%	1	1%	48	13%	5	7%	47	10%	52	10%
3. 実施要領と監督要領だけを重点的に説明する	13	16%	7	10%	56	15%	9	13%	67	15%	76	15%
4. 実施要領と監督要領の変更点だけを説明する	0	0%	0	0%	3	1%	0	0%	3	1%	3	1%
5. その他(具体的に記入)	12	15%	7	10%	35	9%	8	12%	46	10%	54	10%
計	80	100%	67	100%	372	100%	69	100%	450	100%	519	100%

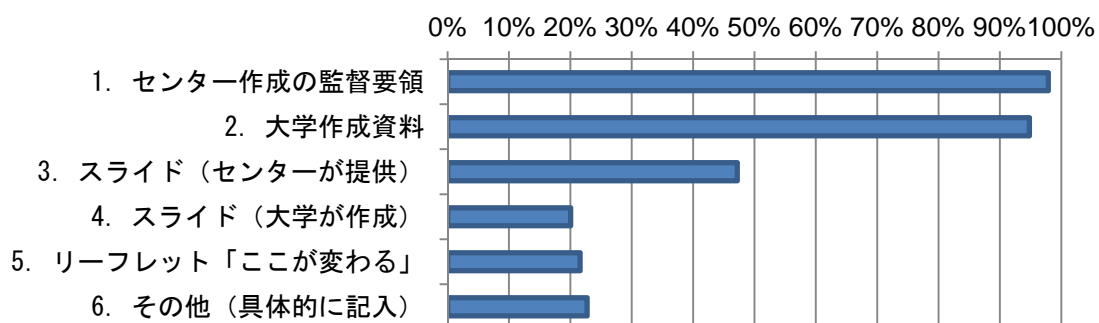


- 1. 実施提要の詳細を説明する(現行通り)
- 2. 実施提要の変更点だけを説明する
- 3. 実施要領と監督要領だけを重点的に説明する
- 4. 実施要領と監督要領の変更点だけを説明する
- 5. その他(具体的に記入)

図表 7 監督者説明会で使用している資料について

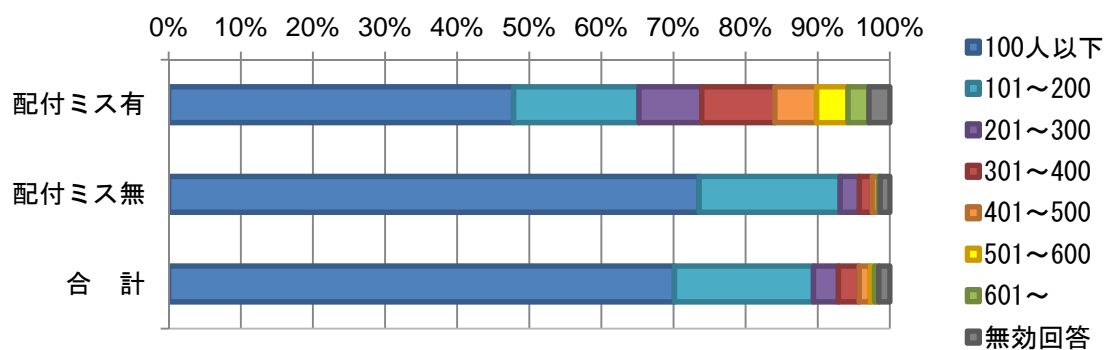
区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. センター作成の監督要領	68	99%	440	98%	508	98%
2. 大学作成資料	66	96%	426	95%	492	95%
3. スライド(センターが提供)	35	51%	210	47%	245	47%
4. スライド(大学が作成)	8	12%	96	21%	104	20%
5. リーフレット「ここが変わる」	17	25%	95	21%	112	22%
6. その他(具体的に記入)	15	22%	103	23%	118	23%
計	69	100%	450	100%	519	100%

(複数回答可)



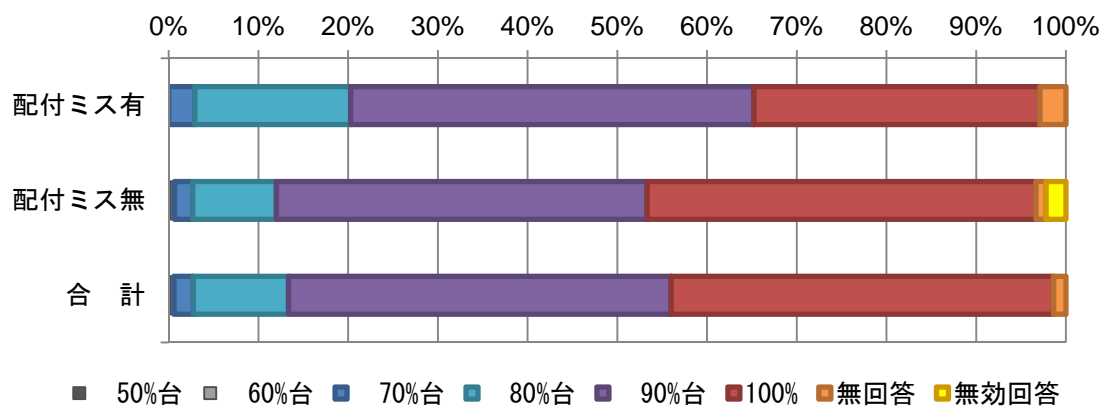
図表 8 監督者説明会への出席予定人数

監督者の出席予定人数	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
100 人以下	33	48%	331	74%	364	70%
101～200	12	17%	88	20%	100	19%
201～300	6	9%	12	3%	18	3%
301～400	7	10%	8	2%	15	3%
401～500	4	6%	4	1%	8	2%
501～600	3	4%	0	0%	3	1%
601～	2	3%	1	0%	3	1%
無効回答	2	3%	6	1%	8	2%
計	69	100%	450	100%	519	100%
200 人以下	45	65%	419	93%	464	89%
200 人以上	22	32%	25	6%	47	9%



図表 9 監督者説明会への出席状況

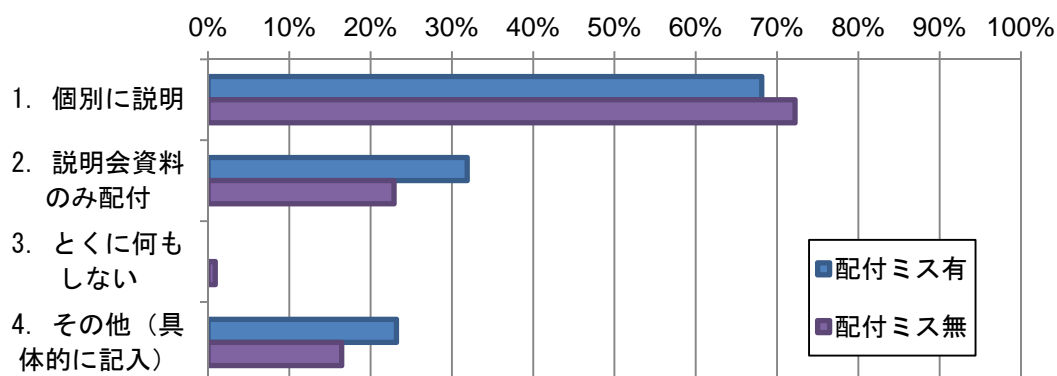
出席率	区分	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
		大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
50%台		0	0%	1	0%	1	0%
60%台		0	0%	2	0%	2	0%
70%台		2	3%	9	2%	11	2%
80%台		12	17%	42	9%	54	10%
90%台		31	45%	186	41%	217	42%
100%		22	32%	195	43%	217	42%
無 回 答		2	3%	5	1%	7	1%
無効回答		0	0%	10	2%	10	2%
計		69	100%	450	100%	519	100%



図表 11 監督者説明会の欠席者への対応

選択肢	区分	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
		大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 個別に説明		47	68%	325	72%	372	72%
2. 説明会資料のみ配付		22	32%	103	23%	125	24%
3. とくに何もしない		0	0%	4	1%	4	1%
4. その他(具体的に記入)		16	23%	74	16%	90	17%
	計	69	100%	450	100%	519	100%

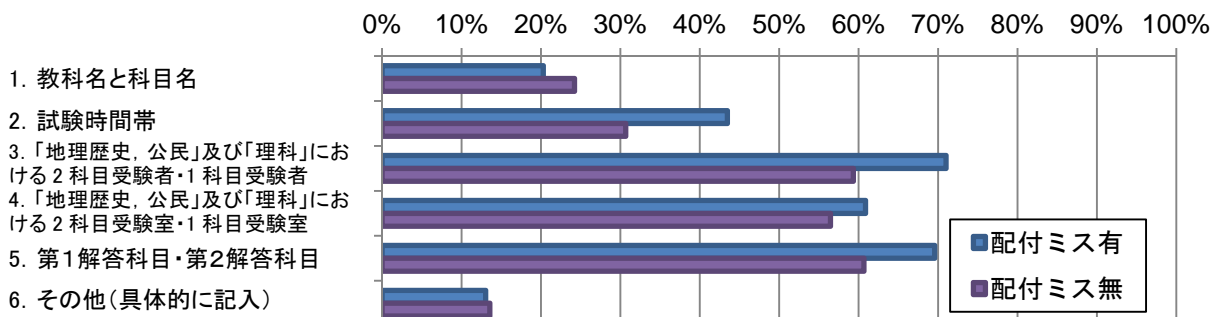
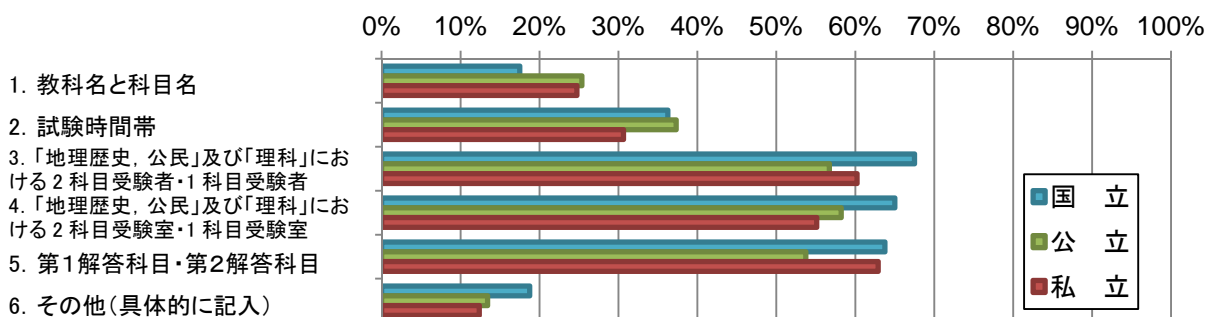
(複数回答可)



図表 12 監督要領で使われている用語の分かりにくさ

区分 選択肢	国立		公立		私立		配付ミス有		配付ミス無		合計	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
1. 教科名と科目名	14	18%	17	25%	92	25%	14	20%	109	24%	123	24%
2. 試験時間帯	29	36%	25	37%	114	31%	30	43%	138	31%	168	32%
3. 「地理歴史, 公民」及び「理科」における2科目受験者・1科目受験者	54	68%	38	57%	224	60%	49	71%	267	59%	316	61%
4. 「地理歴史, 公民」及び「理科」における2科目受験室・1科目受験室	52	65%	39	58%	205	55%	42	61%	254	56%	296	57%
5. 第1解答科目・第2解答科目	51	64%	36	54%	234	63%	48	70%	273	61%	321	62%
6. その他(具体的に記入)	15	19%	9	13%	46	12%	9	13%	61	14%	70	13%
計	80	100%	67	100%	372	100%	69	100%	450	100%	519	100%

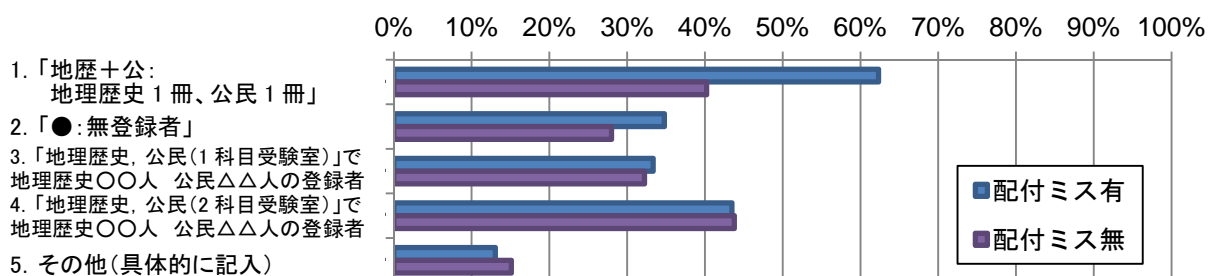
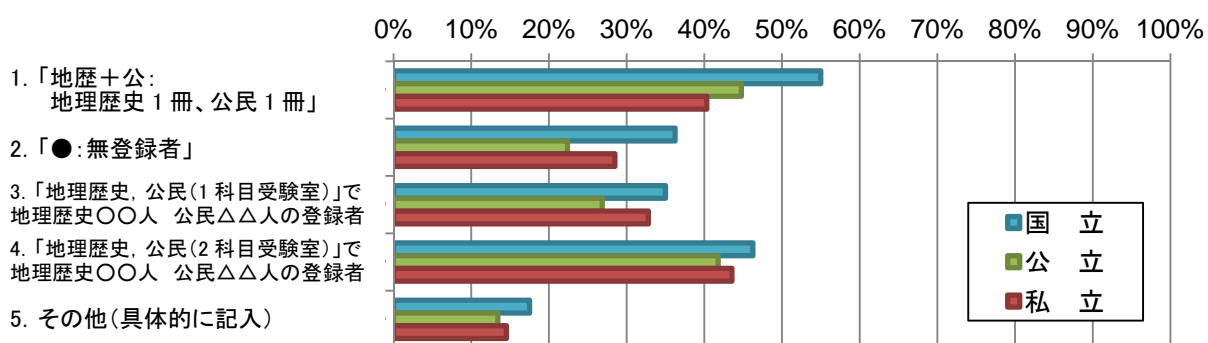
(複数回答可)



図表 13 問題冊子等配付確認表で使われている用語の分かりにくさ

区分 選択肢	国立		公立		私立		配付ミス有		配付ミス無		合計	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
1. 「地歴＋公： 地理歴史1冊、公民1冊」	44	55%	30	45%	150	40%	43	62%	181	40%	224	43%
2. 「●：無登録者」	29	36%	15	22%	106	28%	24	35%	126	28%	150	29%
3. 「地理歴史，公民(1科目受験者試験室)」で地理歴史○ ○人 公民△△人の登録者	28	35%	18	27%	122	33%	23	33%	145	32%	168	32%
4. 「地理歴史，公民(2科目受験者試験室)」で地理歴史○ ○人 公民△△人の登録者	37	46%	28	42%	162	44%	30	43%	197	44%	227	44%
5. その他(具体的に記入)	14	18%	9	13%	54	15%	9	13%	68	15%	77	15%
計	80	100%	67	100%	372	100%	69	100%	450	100%	519	100%

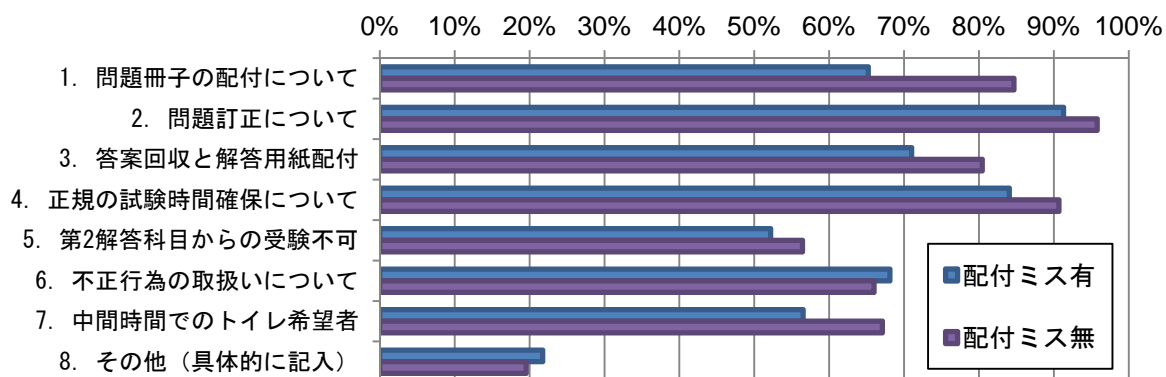
(複数回答可)



図表 14 本試験当日朝の確認事項（第1日目）

区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 問題冊子の配付について	45	65%	381	85%	426	82%
2. 問題訂正について	63	91%	431	96%	494	95%
3. 答案回収と解答用紙配付	49	71%	362	80%	411	79%
4. 正規の試験時間確保について	58	84%	408	91%	466	90%
5. 第2解答科目からの受験不可	36	52%	254	56%	290	56%
6. 不正行為の取扱いについて	47	68%	297	66%	344	66%
7. 中間時間でのトイレ希望者	39	57%	302	67%	341	66%
8. その他(具体的に記入)	15	22%	88	20%	103	20%
計	69	100%	450	100%	519	100%

(複数回答可)



図表 15 本試験当日の大学入試センターと実施大学との間の電話連絡

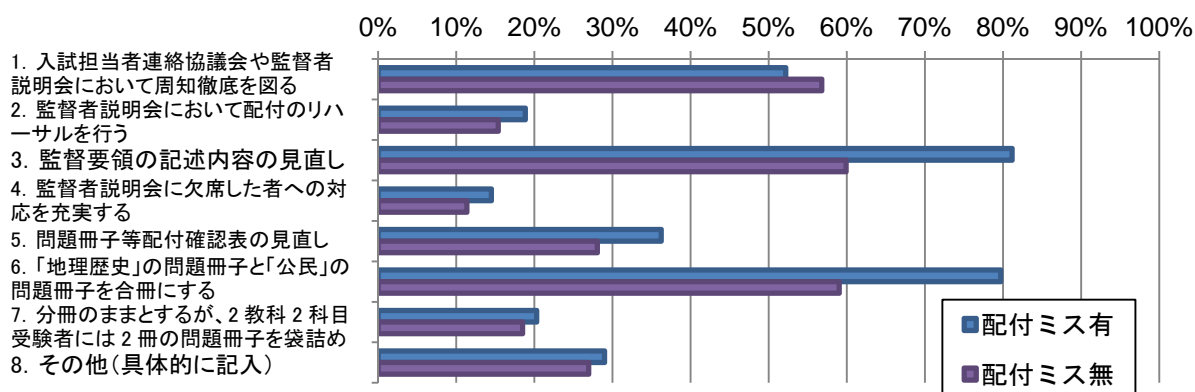
地理歴史, 公民 (2科目受験者)	時間 繰下げ		問題の 内容		不正行為		不測の 事態		再試験		計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. すぐつながり、すぐに回答が得られた	126	24%	7	1%	1	0%	40	8%	1	0%	175	58%
2. つながったが、回答に時間がかかった	15	3%	6	1%	0	0%	31	6%	2	0%	54	18%
3. すぐにはつながらなかったが、すぐに回答が得られた	18	3%	1	0%	0	0%	6	1%	0	0%	25	8%
4. すぐにはつながらず、回答に時間がかかった	11	2%	2	0%	0	0%	23	4%	7	1%	43	14%
5. つながらずに、他の手段を講じた	4	1%	0	0%	0	0%	1	0%	1	0%	6	2%
6. 電話連絡をしなかった	123	24%	118	23%	120	23%	101	19%	113	22%		
無回答	222	43%	385	74%	398	77%	317	61%	395	76%		
計	519	100%	519	100%	519	100%	519	100%	519	100%	303	58%

地理歴史, 公民 (1科目受験者)	時間 繰下げ		問題の 内容		不正行為		不測の 事態		再試験		計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. すぐつながり、すぐに回答が得られた	65	13%	5	1%	0	0%	14	3%	0	0%	84	72%
2. つながったが、回答に時間がかかった	3	1%	4	1%	1	0%	5	1%	1	0%	14	12%
3. すぐにはつながらなかったが、すぐに回答が得られた	9	2%	0	0%	0	0%	3	1%	0	0%	12	10%
4. すぐにはつながらず、回答に時間がかかった	3	1%	1	0%	0	0%	1	0%	0	0%	5	4%
5. つながらずに、他の手段を講じた	2	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%
6. 電話連絡をしなかった	125	24%	117	23%	120	23%	113	22%	118	23%		
無回答	312	60%	392	76%	398	77%	383	74%	400	77%		
計	519	100%	519	100%	519	100%	519	100%	519	100%	117	23%

図表 16 「地理歴史、公民」の問題冊子配付ミスの再発防止について

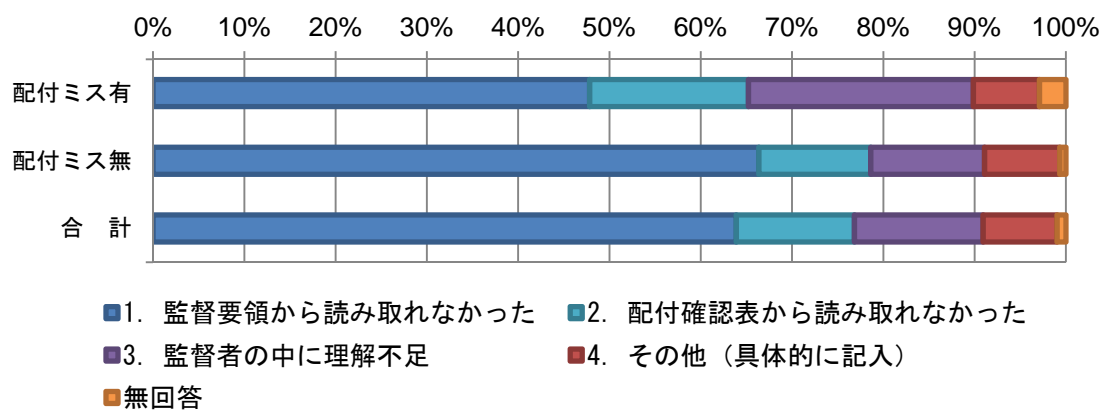
区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 入試担当者連絡協議会や監督者説明会において周知徹底を図る	36	52%	255	57%	291	56%
2. 監督者説明会において配付のリハーサルを行う	13	19%	69	15%	82	16%
3. 監督要領の記述内容の見直し	56	81%	270	60%	326	63%
4. 監督者説明会に欠席した者への対応を充実する	10	14%	51	11%	61	12%
5. 問題冊子等配付確認表の見直し	25	36%	127	28%	152	29%
6. 「地理歴史」の問題冊子と「公民」の問題冊子を合冊にする	55	80%	266	59%	321	62%
7. 分冊のままとするが、2教科2科目受験者には2冊の問題冊子を袋詰め	14	20%	83	18%	97	19%
8. その他(具体的に記入)	20	29%	121	27%	141	27%
計	69	100%	450	100%	519	100%

(複数回答可)



図表 17 「地理歴史, 公民」の問題冊子の配付トラブル等の原因について

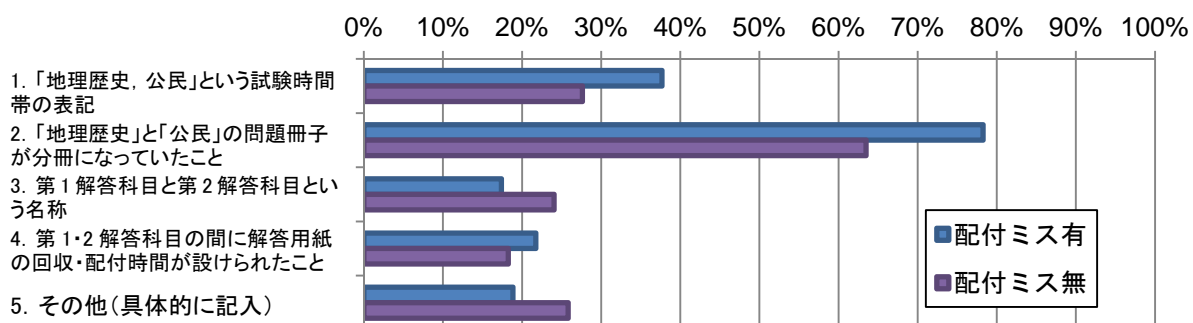
区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 監督要領から読み取れなかった	33	48%	298	66%	331	64%
2. 配付確認表から読み取れなかった	12	17%	55	12%	67	13%
3. 監督者の中に理解不足	17	25%	57	13%	74	14%
4. その他(具体的に記入)	5	7%	37	8%	42	8%
無回答	2	3%	3	1%	5	1%
計	69	100%	450	100%	519	100%



図表 18 「地理歴史、公民」の時間帯での指示ミスの原因について

区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 「地理歴史、公民」という試験時間帯の表記	26	38%	125	28%	151	29%
2. 「地理歴史」と「公民」の問題冊子が分冊になっていたこと	54	78%	285	63%	339	65%
3. 第1解答科目と第2解答科目という名称	12	17%	108	24%	120	23%
4. 第1・2解答科目の間に解答用紙の回収・配付時間が設けられたこと	15	22%	82	18%	97	19%
5. その他(具体的に記入)	13	19%	116	26%	129	25%
計	69	100%	450	100%	519	100%

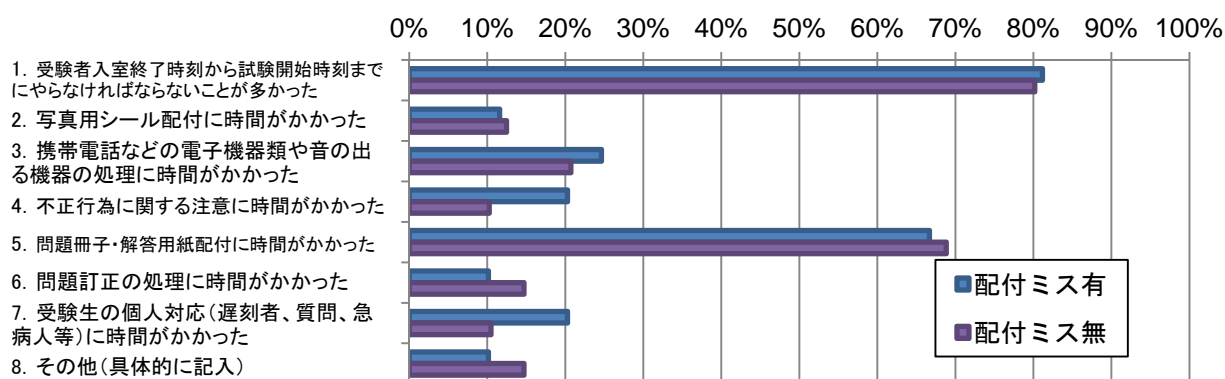
(最大二つ選択)



図表 19 試験時間繰下げの理由について

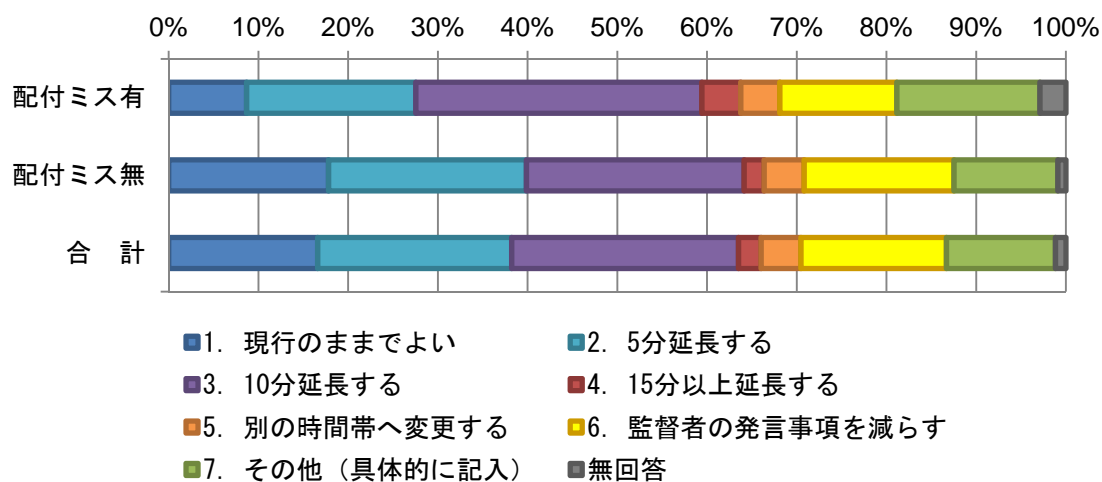
区分 選択肢	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 受験者入室終了時刻から試験開始時刻までにやらなければならないことが多かった	56	81%	361	80%	417	80%
2. 写真用シール配付に時間がかかった	8	12%	56	12%	64	12%
3. 携帯電話などの電子機器類や音の出る機器の処理に時間がかかった	17	25%	93	21%	110	21%
4. 不正行為に関する注意に時間がかかった	14	20%	46	10%	60	12%
5. 問題冊子・解答用紙配付に時間がかかった	46	67%	310	69%	356	69%
6. 問題訂正の処理に時間がかかった	7	10%	67	15%	74	14%
7. 受験生の個人対応(遅刻者、質問、急病人等)に時間がかかった	14	20%	47	10%	61	12%
8. その他(具体的に記入)	7	10%	66	15%	73	14%
計	69	100%	450	100%	519	100%

(最大三つ選択)



図表 20 「地理歴史、公民」の受験者入室終了から解答開始までの時間

選択肢	区分	配付ミス有		配付ミス無		合 計	
		大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)	大学 数	割合 (%)
1. 現行のままでよい		6	9%	80	18%	86	17%
2. 5分延長する		13	19%	99	22%	112	22%
3. 10分延長する		22	32%	110	24%	132	25%
4. 15分以上延長する		3	4%	10	2%	13	3%
5. 別の時間帯へ変更する		3	4%	20	4%	23	4%
6. 監督者の発言事項を減らす		9	13%	75	17%	84	16%
7. その他(具体的に記入)		11	16%	52	12%	63	12%
無回答		2	3%	4	1%	6	1%
計		69	100%	450	100%	519	100%



資料 7 平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会設置要項

平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会設置要項

平成24年2月1日
理事長 裁定

(設置)

第1条 独立行政法人大学入試センターに、平成24年度大学入試センター試験の実施において発生した「地理歴史」及び「公民」の問題冊子の配付ミス等を検証し、再発防止策を検討するため、平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会（以下「検証委員会」という。）を置く。

(委員)

第2条 検証委員会は、10名以内の委員で構成する。

2 委員は、次の各号の一に該当する者のうちから、理事長が委嘱する。

- 一 国公立大学関係者
- 二 高等学校関係者
- 三 その他理事長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、平成24年3月31日までとする。

(委員長)

第4条 検証委員会に委員長を置き、理事長が指名する。

2 委員長は、検証委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第5条 検証委員会の庶務は、総務課において処理する。

附 則

この要項は、平成24年2月1日から施行する。

資料 8 平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会委員名簿

平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会委員名簿

氏 名	所 属
○ 青 山 彰	全国高等学校長協会会長 (東京都立国際高等学校長)
井 上 枝一郎	関東学院大学人間環境学部教授、 財団法人労働科学研究所理事 (非常勤)
加 藤 修	慶應義塾大学名誉教授 (大学入試センター実施方法委員会委員長)
木 苗 直 秀	静岡県立大学長
清 水 一 彦	筑波大学理事・副学長
長谷川 信	青山学院大学副学長
藤 原 淳一郎	霞が関法律会計事務所弁護士
宗 像 敏 夫	全国高等学校長協会大学入試対策委員会 委員長 (東京都立砂川高等学校長)

○印は委員長

(五十音順)

資料 9 平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会審議経過

平成24年度大学入試センター試験の実施に関する検証委員会審議経過

○第1回

日時：平成24年2月3日（金）14：00～16：00

- 議題：1. センター試験実施トラブルの実態把握について
2. 検証作業について

○第2回

日時：平成24年2月17日（金）10：00～12：10

- 議題：1. センター試験実施トラブルの実態把握について
2. センター試験実施トラブルの原因について

○第3回

日時：平成24年2月28日（火）10：00～12：10

- 議題：1. ヒューマンエラーに関するヒアリング等
2. センター試験実施トラブルの実態把握について
3. センター試験実施体制の見直し
4. 実施大学への調査について

○第4回

日時：平成24年3月19日（月）10：00～13：10

- 議題：1. 実施大学への調査について
2. 再発防止の検討について
3. 検証報告書について

○第5回

日時：平成24年3月22日（木）18：00～19：45

- 議題：検証報告書について